

令和8年度 逢妻中学校 特色ある学校づくり推進事業 計画書

※分野【a：国際交流・国際理解、b：地域連携、c：自然体験、d：環境教育、e：学力向上、f：交流体験、g：福祉・ボランティア、h：伝統文化、iその他（ ）】から選ぶ。

テーマ	「人とのかかわりの中で生徒を育てる」	分野	b	地域連携
	サブテーマ ～様々な人とのかかわりを通して校訓を具現する～	その他		
学校づくりの視点（ねらい）	本校は、校訓「至誠、知性、活力」のもと、「誇れる逢妻」をスローガンに掲げ、活気・規律・感動のある学校づくりをめざしている。大規模校であるものの、活気と温かみのある落ち着いた学校である。特に、「特色ある学校づくりの推進」を継続してきたことにより、集団生活をしていく中で人間関係の正常化が進んでいる。 生徒一人一人が安心して学校生活を営んでいくために、「人は人とのかかわりの中で育つ」という視点を軸にした「人とのかかわりを大切にした教育」の継続が、本校の教育活動には不可欠と考える。様々な取組の中で体験的な活動の質を高めることも重視したい。中でも、他団体との心のつながりを重視した活動は、今年も継続して実践していく。具体的には、各学年の総合的な学習の時間を中心に、地域との交流を一層充実させることにより、さらに前向きで落ち着いたある生徒を育成したい。特に、地域の福祉施設や豊田特別支援学校との交流会は今後も継続して実施していきたい。 今年度、地域のあいつまるごとbe activeと連携をして、学校に不適應を起こしている生徒への対応を進めている。それに伴い、不登校傾向の生徒の対応のために、心の相談員の配置時間数を確保し、相談活動の充実に努める。これにより生徒の心の安定のみならず、教員の心の安定もめざしたい。 これらの取組を通して、来年の創立50周年に向けて、地域とともにある学校づくりをさらに推し進めていきたい。また、いつでも気軽に来校していただくための校内の環境整備のために、配置した校内整備員を引き続き有効活用していきたい。			
活動内容・計画	【活動内容】 ①キャリア教育などに関して専門的な知識や経験をもった方々の話を伺う機会を設定し、自己の生き方、将来の夢や職業、働くことの意義についての考えを深める。 ②各種の体験活動の支援や指導を地域の方に依頼し、ものづくりの楽しさや人とのかかわり合いを深めたり、自己の伸長に役立てたりする。 ③自分とは立場の異なる、職業人、障がいをもった人、地域の人々等の交流を通して、ものの見方や考え方、社会性を学ぶことにより、人とのかかわりの大切さを学ぶ。 ④進路についての話を聞く機会を設定し、自分の進路選択の一助とする。 【計画】 4月 総合的な学習の時間の年間活動計画作成 6月 進路を学ぶ会 9月 福祉施設への訪問学習 豊田特別支援学校交流会 12月 キャリア学習講演会 2月 立志式、総合的な学習発表会			
補助員配置	・心の相談員 ・校内整備員			
実績・期待される効果	地域人材の積極的な活用、体験的学習の推進をしてきたことにより、人とのかかわりが豊富になり、前向きで心の温かい生徒が多くなってきた。活気があり規律を守ろうとする生徒も以前より多くなり、感動的な場面が随所に見られるようになってきた。これまでの取組の結果、地域とのかかわりを深めたいと思う生徒が増えてきており、地域行事などへのボランティアに多くの生徒が参加している。さらに、生徒が自ら地域清掃活動をするなど、能動的な地域貢献活動も充実してきている。このようなことから、地域の人々とのかかわりは本校にとって必要不可欠となっている。 心の相談員の配置時間確保は、専門的な立場からのアドバイスが、生徒や保護者、さらには教員の心の安定につながると考える。また教室に入れない生徒が、はあとラウンジを活用することにより登校できるようになることが期待される。 校内整備員の配置を継続することで、敷地面積が広く、手の行き届きにくい箇所の整備が進み、生徒・職員にとって生活しやすい環境が整うことだけでなく、保護者や地域の方が気持ちよく来校する環境づくりをめざしたい。 本校の生徒数は、令和8年5月現在で776名という大規模校で、実践効果がすぐに表れにくい面がある。よって、継続的な地域連携の推進や質の高い体験活動の導入を進め、少しずつのレベルアップをしていくことが大切である。この取組により、生徒自らがいっそう意欲をもつ			
検証方法	・各活動後の生徒の感想、その後の生徒の変化、かかわった地域の方々のアンケートや感想 ・生徒の地域行事へのボランティア参加状況 ・はあとフルラウンジの活用状況			